

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	放課後等デイサービス のコストイル平岡			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		～	2025年 12月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38名	(回答者数)	32名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日		～	2025年 12月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 9日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・二部制による利用のしやすさ	・二部制にすることで、休日は特に部活動や自分の時間との両立ができ、メリハリをつけた時間の使い方ができています。	・各活動でマンネリ化しないよう活動内容を工夫したり、利用者様の希望を汲みながら「自分達の居場所づくり」ができるよう子どもも主体で考えていきます。
2	・思春期ならではの心の葛藤への寄り添い	・日々の心の変化に気づけるよう、職員全体で様子を伺い、情報を共有しています。場合によっては、職員のみではなく卒業生や先輩からの助言の機会も大切にしています。	・「誰のどんな言葉なら響くのか」を共有しながら、子供に合わせて寄り添う大人や関わり方を考えていきます。
3	・保護者支援	・相談事があった際には、なるべくその場で聞けるように心がけています。利用者様についての悩みだけではなく、兄弟についての困りごとについてもお話を伺っています。	・児発管不在の時には、他の職員が相談にのれる環境を作りたいと思っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・日々の活動などの保護者への周知	・保護者の就労などで、お子様の帰宅時間にお会いできなかったり、年齢的にお便り等を見せない場合もあります。 ・連絡帳をアプリにすることで保護者様へ直接情報が届くようになりましたが、まだ慣れていないため確実にご覧いただけているか確認できていません。	・定期的な面談や電話連絡時には、今まで以上に確認をしていく必要があると感じています。
2	・平日の支援時間の短さ	・高学年～中学生は下校時間が遅く、物理的に支援時間が限られています。	・学校休業日は二部制でメリハリつけやすいですが、平日は送迎時にその日の取り組み内容を確認したりすることで、到着後の活動がスムーズにいくよう配慮していきたいと思っています。
3	・職員の対応力	・思春期+発達特性により、偏った考え方や言動が見られる場面があります。	・本人にわかりやすい伝え方・言い回しなどを探り、伝わらなければ対応する職員を交代するなどして対応していきます。また、研修等を通して対応力を養っていきます。